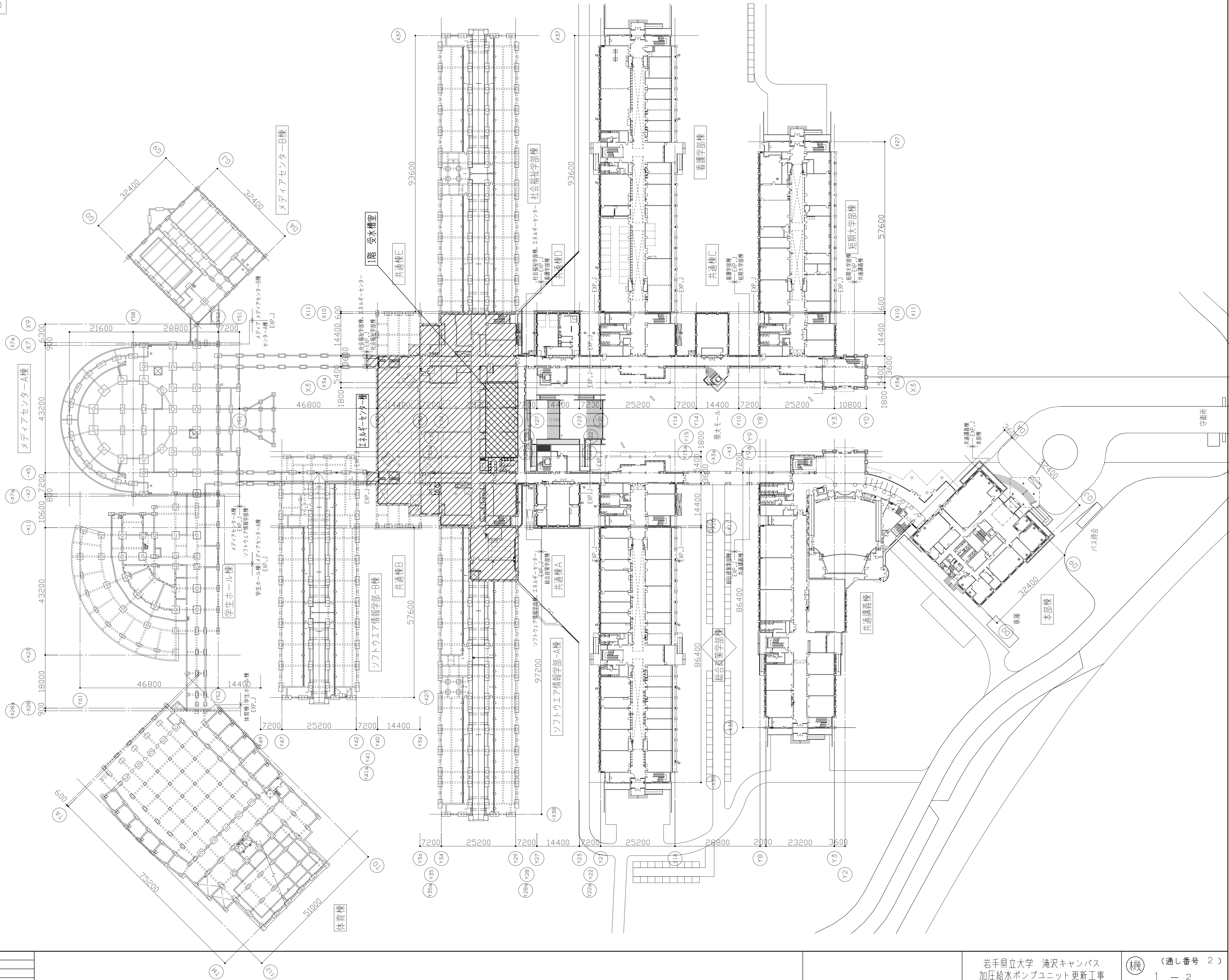


岩手県立大学 滝沢キャンパス
加圧給水ポンプユニット 更新工事

機械設備図面リスト				
通し 番号	図面番号	図 面 名 称	縮 尺	備 考
1	1 - 1	概要書、附近見取図	-	
2	1 - 2	配置図	-	
3	2 - 1	機械設備 特記仕様書（1）	-	
4	2 - 2	機械設備 特記仕様書（2）	-	
5	2 - 3	機械設備 特記仕様書（3）	-	
6	2 - 4	機械設備 特記仕様書（4）	-	
7	2 - 5	機械設備 特記仕様書（5）	-	
8	2 - 6	機械設備 特記仕様書（6）・凡例	-	
9	3 - 1	機械設備 機器リスト（撤去・新設）、系統図	-	
10	4 - 1	機械設備 受水槽室配管平面図（撤去図・1期・2期）	1/100, 1/50	
11	4 - 2	機械設備 搬入ルート図	1/100, 1/50	
12	5 - 1	電気設備 改修特記仕様書	-	
13	5 - 2	電気設備 動力制御盤リスト	-	
14	5 - 3	電気設備 動力設備平面図（撤去図・1期・2期）	1/50	
15				



施工			
竣工			
監理			
施工			

18・03・15

岩手県立大学 滝沢キャンパス
加圧給水ポンプユニット更新工事

配置図

A1:1/600
A3:1/1200

（通し番号 2）
1 - 2

No. T-150287-E

1	特記仕様書(3)	-																																																								
	<p>イ,全停電・復電総合検査（検査における条件等は電気設備工事設計図により、検査の要領等は、「提出書類作成要領・受注者検査要領」による。）</p> <p>ロ,防災総合検査 ハ,タンク、水槽関連総合検査(設備工事のみ)</p> <p>ニ,自動制御総合検査(設備工事のみ)</p> <p>ホ,中央監視総合検査</p> <p>ヘ,総合運転による騒音、振動検査</p> <p>ト,完成時の室内環境測定</p> <p>チ,セキュリティシステム検査</p> <p>リ,そのほか、発注者及び監理者の指示する検査</p> <p>4)設計図書等に定める環境下における設備機器の性能、機能、室内環境の検査 設備機器の性能、機能、室内環境について、夏季及び冬季の各気象条件が設計条件に近い日における測定結果が、それぞれ満足していることを確認する。建築物の完成時期等により発注者への引渡しまでに実施できない場合は、発注者及び監理者の承認を受け、1,7,9による完成後の性能機能検査として実施する。</p> <p>5)BEMS(ビルエネルギー管理システム)、FMS(ファシリティ管理システム)等の機能検査 管理システムが設計図書等の仕様のとおり機能することを確認する。</p> <p>6)自然換気システムの作動確認、取扱い説明及び自然換気性能の確認 自然換気システムの作動確認を行う。風速、降雨等による制御を行うシステムの場合は、所定の条件で動作することを確認する。また、建築物利用者向けの自然換気利用取扱い説明書を作成し、発注者及び建物管理者に説明のうえ提出する。 なお、自然換気性能の確認は、次による。 ※行わない ・下記により行う イ,確認内容 ロ,確認時期 ハ,事前準備 ニ,測定方法 ホ,測定箇所 ヘ,測定日数 ト,定量的評価 チ,その他</p> <p>7)模擬負荷による冷暖房機能検査 冷房・暖房機能について、関連機器及び各装置の性能、機能を設計図書等と照合し、設計条件相当の負荷(模擬負荷)による測定を行い、その適合性を確認する。測定要領は、機械（空調）設備設計図による。 イ,冷房性能測定 対象室:() ロ,暖房性能測定 対象室:()</p>	<p>3)提出・保管媒体 ※デジタルデータ(PDF、TIFF等) 原本() d,前 a、c 号により発注者に提出された図書等の著作権にかかわる当該建築物に限定する使用権は、発注者に無償で委譲するものとする。</p> <p>1,7,2 完成図</p> <p>1,7,2 完成図</p> <p>a,完成図は、完成した工事事目的物に関する情報を整理、記録し、完成時の状態を表現したものであり、工事事目的物の維持保全及び将来の改修、増改築等のための基本情報として使用することを目的として作成する。</p> <p>b,完成図は、監理者の確認を受けた後、工事事目的物の完成時に、発注者及び監理者に提出する。</p> <p>c,完成図の種類 ・共仕[表1,7,11]による ※「提出書類作成要領」[3章](工事完成時に提出する書類)による。また「特記仕様書」等の記載項目は省略しない。このうち、完成図とする主要な詳細図等は、次による。 建築意匠図：・階段詳細図 ・平面詳細図 ・断面詳細図 ・展開図 ・各部詳細図(標準詳細図を含む) ・天井伏図 ・建具表 ・建具符号図 ・外構詳細図 ・植栽図 ・ 建築構造図：・構造関連詳細図 ・ 設備図：※設計図面に準拠して作成する ・ ※完成図に添えて、次を提出する。 ※防火区画図、排煙区画図 ・各種防災設備プロット図 ・耐防火構造種別図、同構造詳細図(大臣認定証の写し等) ・建築基準法12条5項の報告に必要な各種図面 ・構造積載荷重範囲図 ・改修後の建築物全体図(・平面図) ・ ・</p> <p>d,共仕[1,7,2(b)]を次に読み替える。 (b)完成図の様式、サイズ、体裁、提出部数等は、「提出書類作成要領」によるとともに、次による。原因及び電子媒体の各1部は設計者用とし、監理者を通じて発注者に提出する。</p> <table><thead><tr><th>種類</th><th>サイズ</th><th>製本等の体裁</th><th>紙質等</th><th>部数</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>原因</td><td>A1判</td><td>—</td><td>トレーシングペーパー</td><td>1</td><td>3つ折り図面ケース入り</td></tr><tr><td>製本1</td><td>A1判</td><td>2つ折り製本</td><td>普通紙</td><td>2</td><td>表紙及び背表紙にタイトル入り</td></tr><tr><td>製本2</td><td>A3判(縮小)</td><td>2つ折り製本</td><td>普通紙</td><td>2</td><td>表紙及び背表紙にタイトル入り</td></tr><tr><td>製本3</td><td>A1判</td><td>A4判折込み製本</td><td>普通紙</td><td>1</td><td>黒表紙銀文字製本</td></tr><tr><td>原因のCADデータ</td><td>—</td><td>電子媒体(CD-R、DVD-R等)</td><td>—</td><td>2</td><td>媒体にタイトル印刷</td></tr><tr><td>原因のPDFデータ</td><td>—</td><td>電子媒体(CD-R、DVD-R等)</td><td>—</td><td>2</td><td>媒体にタイトル印刷</td></tr></tbody></table> <p>1)原因及び製本用紙への印刷は、原則としてそれぞれCAD出力プリントとする。 2)CADデータのファイル形式はAUTOCADとし、作成要領は、監理者の指示による。</p> <p>e,完成図は、当該工事により明確になった内容(事前調査内容、プラン変更、系統変更等)を反映し、工事完成時における建築物の現状を表現したものである。 f,貸室等で、工事事目的物の完成後に、テナント工事等の別途工事により出来形が変わる場合で、次に示すものは、工事事目的物の完成状態を示す完成図と別途工事完了後の状態を示す完成図の両方を作成する。 ・適用する(範囲：) ・適用しない</p>	種類	サイズ	製本等の体裁	紙質等	部数	備考	原因	A1判	—	トレーシングペーパー	1	3つ折り図面ケース入り	製本1	A1判	2つ折り製本	普通紙	2	表紙及び背表紙にタイトル入り	製本2	A3判(縮小)	2つ折り製本	普通紙	2	表紙及び背表紙にタイトル入り	製本3	A1判	A4判折込み製本	普通紙	1	黒表紙銀文字製本	原因のCADデータ	—	電子媒体(CD-R、DVD-R等)	—	2	媒体にタイトル印刷	原因のPDFデータ	—	電子媒体(CD-R、DVD-R等)	—	2	媒体にタイトル印刷	<p>1,7,5 追補 (電気) 1,7,7 (機械) 竣工写真</p> <p>a,竣工写真の提出は、次によるほか、「提出書類作成要領」による。 1)提出写真カット数 外観() 室内() 航空写真() 2)カラープリント提出部数等</p> <table><thead><tr><th>区分</th><th>提出先</th><th>アルバムの形式</th><th>提出部数</th></tr></thead><tbody><tr><td>・アルバム1</td><td>発注者</td><td>※フォトブック形式 ・台紙アルバム形式</td><td>2</td></tr><tr><td>・アルバム2</td><td>監理者</td><td>※フォトブック形式</td><td>1</td></tr></tbody></table> <p>注)1,フォトブックは下記程度とし、写真のサイズ、レイアウト等詳細は、発注者及び監理者と協議する。その他詳細は「提出書類作成要領」による。 サイズ：※内面260mm×260mm 装丁：※ハードカバータイプ フルフラット製本 紙質等：※シルク紙高画質印刷 ・印刷紙 参考：エスエス企画 建築写真PR026スクエア 程度 2,フォトブック形式のアルバムの作成した場合は、フォトブックのPDFデータ(高品質、200pixel/inch以上)も提出する。(発注者用1部、監理者用1部) 3,台紙アルバム形式の詳細は、「提出書類作成要領」による。</p> <p>b,竣工写真のデジタル画像データ等は、次による。 1)提出部数 2部 (発注者提出用1部、監理者提出用1部) 2)解像度 キヤピネ判フルカラー400dpi(長辺方向2,600pixel)以上 フォトブックの体裁にかかわらず、データはキャピネ版サイズのものとする。また、提出するデータにおいて、各画像が横向きとならないようにする。 3)ファイル形式 ※TIFF(圧縮 LZW) ・JPG(圧縮 最高画質) 4)カラーモード RGB 5)記録媒体 CD-R、DVD-R等 フォルダ形式及びファイル名は、監理者の指示による。 6)その他 通し番号と標題及び各写真の撮影者を記した写真一覧表のExcel等のデータを添付する。やむを得ず画像データが上記仕様を満たすことができない場合は、画像データのほか、キャピネ版カラープリントによるバラ写真全数(1部)を監理者に提出する。</p> <p>c,撮影者は、次による。 ※監理者の承認する撮影者 ・建築写真専門家(監理者と協議のうえ選定) d,撮影時期その他の撮影条件は、次による。</p>	区分	提出先	アルバムの形式	提出部数	・アルバム1	発注者	※フォトブック形式 ・台紙アルバム形式	2	・アルバム2	監理者	※フォトブック形式	1	<p>3)調査方法 ※既存建築物の完成図、施工図、過去の改修記録、取扱い説明書等の照査 ※入居者、建物管理者や保守員(電気主任技術者を含む)へのヒアリング ※目視、計測等の現地調査 ※関係官公署(建築主事、消防署ほか)等との事前協議 ・工事に伴う騒音振動のテスト施工</p> <p>b,埋設物の調査 工事着手に先立ち、次により埋設配線、配管等の埋設物の詳細な調査を行い、報告書を監理者に提出する。なお、調査に先立ち調査計画書を作成し、監理者の承認を受ける。 1)調査項目 ※埋設配線の位置 ※埋設配管の位置 ※鉄筋位置 2)調査範囲 ※既存コンクリートに穴あけ、はつり、釘打ち、アンカー施工を行う箇所とその周辺 ※掘削工事を行う部分とその周辺 ・設計図による ・</p> <p>3)調査方法 ※既存建築物の完成図、施工図、過去の改修記録等の照査 ※目視、計測等の現地調査 ※探査機(X線、レーダー、電磁波測定器等)による調査 ・</p> <p>c,既存躯体の現況調査 工事着手に先立ち、次により既存躯体の現況調査を行い、報告書を監理者に提出する。躯体に不良部分がある場合の措置については、監理者と協議する。この措置により、工事の内容、工期又は請負代金額を変更する必要があると認められる場合は、見積要項書によるほか、発注者、監理者及び受注者等で協議する。 1)調査項目 ※コンクリートのひび割れ、じゃんか、充填不良、コールドジョイント等 ・コンクリート強度 ・コンクリートの中性化 ※鉄筋の錆 ・鉄筋のかぶり厚 ・ ※鉄骨の錆 ※耐火被覆 ※床たわみ ・建築物の不等沈下 ・躯体のはつり等による欠損 ・ALCパネルの劣化状況 2)調査範囲 ※改修対象範囲内で躯体が露出している部分すべて ・設計図による ・ 3)調査方法 ※目視、打診 ・コア抜き() d,改修対象以外の既存部分の調査 ・実施しない ・工事着手に先立ち、次により実施する 1)調査項目() 2)調査範囲 ※改修工事範囲内 ・建築物全体 ・設計図による 3)調査方法 ※目視、計測、触診、打診、作動試験等の現地調査 ・ 4)この調査により、工事の内容、工期又は請負代金額を変更する必要があると認められる場合は、見積要項書によるほか、発注者、監理者及び受注者等で協議する。</p>
種類	サイズ	製本等の体裁	紙質等	部数	備考																																																					
原因	A1判	—	トレーシングペーパー	1	3つ折り図面ケース入り																																																					
製本1	A1判	2つ折り製本	普通紙	2	表紙及び背表紙にタイトル入り																																																					
製本2	A3判(縮小)	2つ折り製本	普通紙	2	表紙及び背表紙にタイトル入り																																																					
製本3	A1判	A4判折込み製本	普通紙	1	黒表紙銀文字製本																																																					
原因のCADデータ	—	電子媒体(CD-R、DVD-R等)	—	2	媒体にタイトル印刷																																																					
原因のPDFデータ	—	電子媒体(CD-R、DVD-R等)	—	2	媒体にタイトル印刷																																																					
区分	提出先	アルバムの形式	提出部数																																																							
・アルバム1	発注者	※フォトブック形式 ・台紙アルバム形式	2																																																							
・アルバム2	監理者	※フォトブック形式	1																																																							
1,6,2 法定検査	置換	a,共仕[1,6,2]を、次に読み替える。 (a)建築基準法第7条から同法7条の4までに定められる検査その他設計図書等に定める法令上必要とされる関係機関による検査のうち、発注者が申請者となっているものの検査に先立つ適切な時期に、工事の内容が設計図書等(計画変更確認申請ほか、変更の協議や申請が行われた場合は、確認済みの図書を含む)のとおり実施されていることを確認して、監理者の検査を受ける。 (b)(a)の検査に合格したのうち、監理者の立会いのもとに発注者の検査を求め、これを受ける。 (c)発注者が受ける法定検査に監理者とともに立ち会い、検査の記録を作成する。また、検査の申請に必要な工事関連書類作成及び資料提供のほか、検査に必要な資機材や労務を提供するなど受検に協力する。 (d)(a)の検査又は法定検査に合格しないときは、修補、改造その他必要な処置を行う。これらの処置への対応は、工事約款の定めによる。																																																								
1,6,4 部分使用	追補	a,工事中に工事事目的物の一部を発注者が使用する「部分使用」がある場合は、当該部分について、共仕[1,5,5]に定める監理者による施工の検査及び1,6,1項に準じた諸検査を受ける。部分使用に関して必要な官公署その他への手続については、発注者に協力する。																																																								
7節 完成図等																																																										
1,7,1 完成時の提出図書		a,共仕[1,7,1(a)]を、次に読み替える。 (a)工事完成時の提出図書は、次による。 ※完成図 ※保全に関する資料 ※竣工写真 ※施工図 ※施工計画書等 ※以下の1,7,1 c,1)による ・ ・ ※以下の1,7,1 c,1)による ・ ・ ※その他「提出書類作成要領」に示す図書 ・竣工パンフレット 発注者用 部、監理者用 部 竣工パンフレットは、竣工写真及び建築物概要、設計コンセプト等を記載したもので、体裁、内容等は監理者の指示による。体裁は、監理者の指示がない場合は、A4判2つ折りカラーオフセット印刷とする。提出時期は、発注者との協議による。 ・ ・ [付加] b,工事完成時に提出する図書類の種類、内容、書式、提出部数等は、「提出書類作成要領」による。 [付加] c,工事関係図書を整理のうえ、次により発注者及び監理者に各1部を提出するとともに、工事完成引渡し後も自ら保管する。 1)提出、保管する工事関係図書 ※施工図等 (※すべて 監理者の指示する施工図等) ※施工計画書、施工要領書、試験計画書 (※すべて 監理者の指示する施工計画書等) ※検査記録 (工事中のすべての受注者等、監理者、官公署による検査等の記録を含む) ※施工報告書、試験報告書 ※工事写真 ※会議記録、打合せ記録 ※各種計算書(設備関連、耐震関連、耐風圧関連等) ・ ・ 2)受注者による保管期限(工事完成引渡し日から起算) ※15年	<p>1,7,3 付加</p> <p>a,共仕[1,7,3(a)(1)~(6)]に示すほか、保全に関する資料として、次のものを監理者の確認を受けたのち、発注者に提出する。 ※保証書(原本) ※保守及び緊急連絡先 ※機器類操作点検等取扱い引継ぎ書 ※地中仮設貯存物記録 ※設備関係測定報告書 ・保全マニュアル ・長期修繕計画書 ・ ・</p> <p>b,保全に関する資料の部数等は、「提出書類作成要領」による。 c,次に該当する建築物部位、設備、部品等については、建築物等の利用、維持管理、保全に関する説明書及び機器取扱い説明書を作成し、監理者の確認を受けたのち発注者に提出し、発注者又は発注者の指定する建物管理者等に対して取扱い説明を行う。取扱い説明が完了した場合は、その記録を添えて監理者に報告する。 1)特殊な操作を必要とするもの 2)特殊な手入れを必要とするもの 3)使用上、保全上特別な注意を必要とするもの 4)専門工事業者への保全管理委託を必要とするもの 5)定期的に状態や機能を点検する必要があるもの 6)経年劣化等により更新、取替え等が必要なもの 7)その他、事故、早期の損耗や劣化等を避けるために必要と思われるもの</p>																																																							
8節 施工調査	追補																																																									
1,8,1 施工計画調査	追補	a,施工計画作成のための調査 工事着手に先立ち、施工計画作成のために、次による調査を行い、報告書を監理者に提出する。なお、有害物質の有無の調査については、解体特仕による。 1)調査項目 ※施工計画に影響する事項全般 ・配管配線ルート全経路(既設点検口がない場合は、新たに点検口を設けて調査する) ・ ・ 2)調査範囲 ※改修工事範囲全般 ・設計図による																																																								
施工																																																										
竣工																																																										
監理																																																										
竣工																																																										
T150287E_0203_機械設備_特記仕様書(3).DWG 18/01/10 MNK6363 KARIYA PS 5134424_E 1/1 A1YFPC																																																										

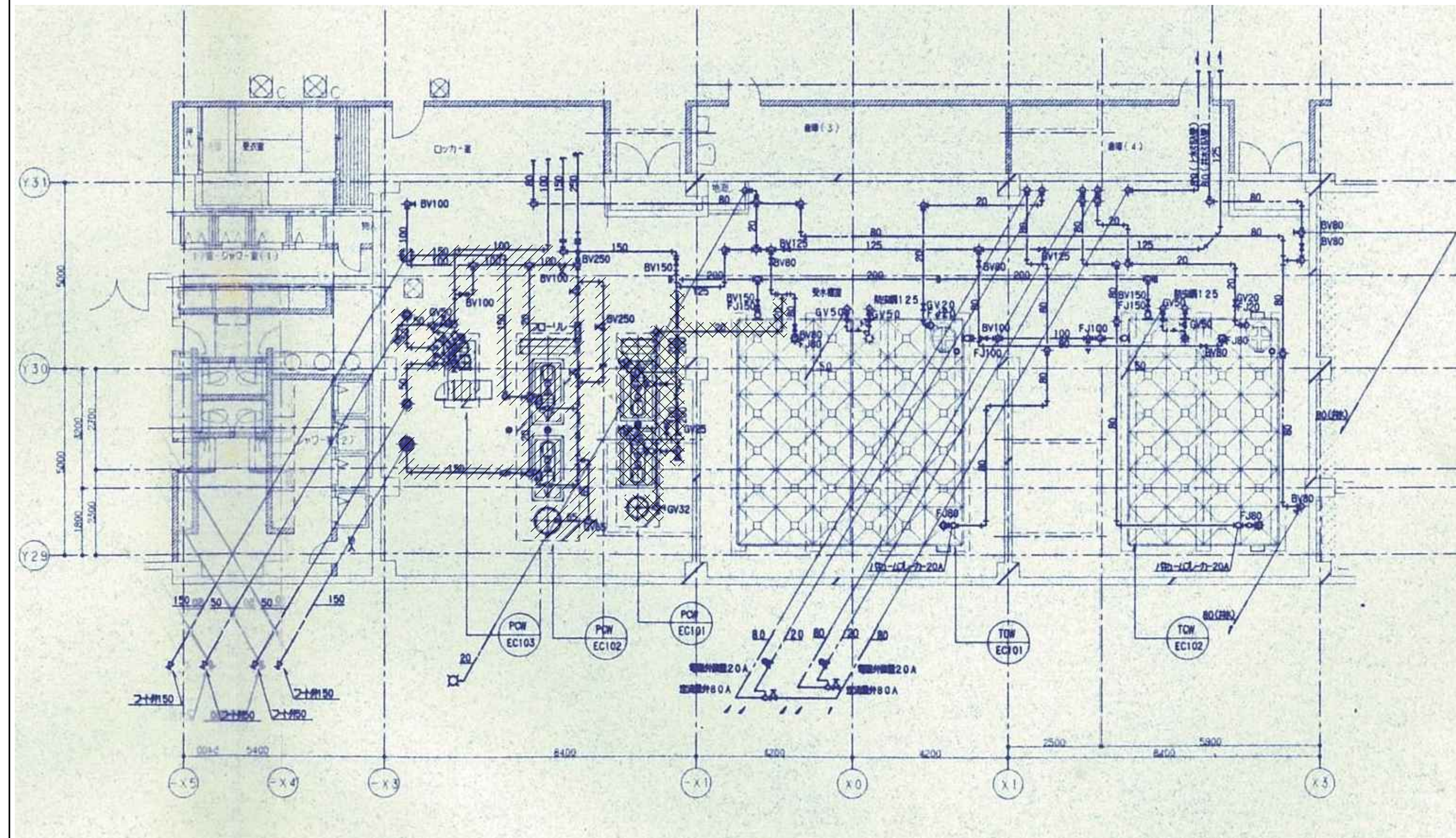
岩手県立大学 滝沢キャンパス 加圧給水ポンプユニット更新工事	(機械) (通し番号 5)
機械設備 特記仕様書(3)	No. T-150287-E

特記仕様書（４）		-			
2.2.2 工事用電力等		a.工事用電力 ・既存設備使用(電力量計を設けて、仮設配電盤を設置 ・有 ・無) ※既存のコンセントから直接電力を使用(○有 ・無) ・発電機等使用して工事に必要な電源供給 b.工事用水 ・既存設備使用(量水器を設けて、仮設配管を施し使用 ・有 ・無) ※既存設備の水栓等から直接水を使用(○有 ・無)			
2.2.3 仮設圍仕切り		a.仮設圍仕切り ※設けない ・設ける(・設計図による ・) b.仮設圍仕切りの種別 A種 ・ B種 ・ C種 A種、B種の材料 ・厚さ9mmの合板張り ・厚さ9.5mmのせっこうボード張り A種、B種の塗装仕上げ ・塗装なし ・塗装する c.仮設扉 設置箇所(・設計図による ・) 種別(※合板張り木製扉 ・)		第2節 電動機及び制御盤 1.2.1 付加 a.電動機 b.誘導電動機の規格 ・設計図による c.誘導電動機の始動方式 ・始動方式() d.誘導電動機の形式 400V級電動機は絶縁強化型とする。	
改修標準 第3節 監督職員事務所、材料置場、その他の仮設物		a.監督者事務所の設置 ・既存建築物内の一部を使用 ・構内に設置 ・構外に設置 ○その他(別述工事の新設事務所を利用) b.監督者事務所の規模 ・10㎡程度 ・20㎡程度 ・35㎡程度 ・65㎡程度 ・100㎡程度 ・㎡程度 ・上記のほか会議室(受注者等と共用で、㎡程度) ・上記のほか休憩室、更衣室(㎡程度)		1.2.1.2 制御及び操作盤 1.2.2.2 付加 インバーター用 制御及び操作盤 a.バイパス回路 1)インバーター故障時の直送バイパス回路を設ける。 2)インバーター本体に組み込まれた逆起コンデンサ及び冷却ファンは単体で取替えが可能な形式とする。 b.構成 ・表示等 ・運転時間計 ・ c.接点及び端子 ・ d.インバーター用制御及び操作盤 ・標準仕による ・	
改修標準 第3章 養生		1.2.2.3 付加 誘導雷対策 a.構内の屋外(※建築物屋上を除く ・建築物屋上を含む)に、ポンプ等のユニット盤、自動制御設備等の制御盤、その被制御機器を設置する場合は、その盤の一次側電源の受電部盤の一次側及び二次側信号線、被制御機器の受電部と信号線接続部に誘導雷保護のためSPD(防雨箱内に収容、開閉器付、電気工事の接地線に接続する接地線を含む)を設ける。またその屋外盤と建築物内の監視制御主装置をつなぐ信号線には、建築物に引き込む部分にSPDを設ける。ただし光ケーブルの部分を除く。受電部のSPDは標準(電気設備工事編)「第2編 第1章 1.8.6 (n)」の低圧SPDにより、信号線用のSPDは標準(電気設備工事編)「第6編 第1章 1.4.5通信用SPD」による。			
改修標準 第2節 既存部分の養生		第3節 総合調整 1.3.2 総合調整 a.総合調整項目 各設備における装置全体が設計図書の意図した機能を満足させることを目的とし、設計図書に示された目標値等と照合しながら、次の項目について各機器相互間の総合調整を行う。総合調整に先立ち、調整方法、調整時期、日程、人員及び安全対策を含む総合調整計画書を監理者に提出し、承認を受ける。 ※風量調整 ※水量調整 ※水圧調整 ※室内外空気の温湿度測定 ※騒音測定 ・室内気流及び塵あいの測定(・手術室 ・クリンルーム ・) ・振動測定(・熱源機械室の直上直下の室 ・屋上直下の室 ・) ・各階機械室の直上直下の室 ・) ※飲料水の水質測定(受水タンク) ※末渾水栓での水質測定(飲料水、雑用水) ※冷水、温水、冷却水等の水質は、(一社)日本冷凍空調工業会JRA-8L02:1994による。ただし、水質検査、分析、評価は、基本項目、参考項目に加えて、水温、亜硝酸イオン、濁度、色度、亜鉛、硫酸イオン、ナトリウム、カリウム、外観、リン酸、マンガ、ン、レジオネラ属菌、溶存酸素、()の項目とする。 吸引式冷凍機、ターボ冷凍機の水質管理については、水処理薬剤を使用する場合の水質管理方法として、(一社)日本冷凍空調工業会「吸引式冷凍機・ターボ冷凍機の水処理ガイドブック」も合わせて適用する。 飲料水以外の揚水、還元井戸の水質検査、分析、評価は、冷水、温水等に準ずる。 ※蓄熱槽の水質は、(一財)ヒートポンプ・蓄熱センターの「蓄熱式空調システムにおける水質保全設計・管理マニュアル」の基準値を適用する。 ただし、水質検査、分析、評価項目は、上記の水質保全設計・管理マニュアルの基準項目に加えて、亜硝酸イオン、濁度、色度、亜鉛、硝酸イオン、ナトリウム、カリウム、外観、リン酸、マンガ、ン、()の項目とする。 また、沈殿物が検出された場合は、強熱減量試験を実施し、分析を行う。 蓄熱槽は、水張り前に飲料水で槽内全体を清掃し、汚れや不純物等がないことを確認し、その後、飲料水で水張りを行う。蓄熱槽の水質は、スケール、スライム、腐食、微生物、レジオネラ属菌等の繁殖が認められない水質であることを確認し水質分析評価報告書を発注者及び監理者に提出する。水質に問題があった場合には、適切な水質になるよう、水の入替、水処理薬剤等で適切な処置を講ずる。 ・臭気測定 (測定方法:) ※浄化槽、排水処理設備、雨水ろ過設備等は、実稼働一定期間経過後、放流水質、処理水質等を測定 ※冷却水補給水槽、雑用水槽、消火水槽等の槽内水質は、水質検査、分析、評価を行う。水質検査項目は、蓄熱槽水に準ずる。 総合調整完了後、機器等の運転状態の記録表及び系統ごとに各測定結果をまとめた測定報告書を発注者及び監理者に提出する。測定報告書には測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する。また、「建築設備定期検査業務基準書」に準拠した「検査結果表」をまとめた報告書として発注者及び監理者に提出する。			
改修標準 第4章 撤去					
改修標準 第1節 一般事項		a.撤去前に内容物(冷媒・吸収液・廃油等)の回収を要する機器・配管 冷媒等の回収等の費用 ※本工事 ・別途 1)冷媒の回収にあたっては、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)」に従って行い、監理者に次の資料を提出する。 イ、第一種フロン類充填回収業者登録通知書の写し ロ、フロン類充填・回収証明書 2)家庭用エアコン等で、「特定家庭用機器再商品化(家電リサイクル法)」の対象となっているものは、同法に従ってリサイクル(フロン類の回収を含む)を行い、監理者に次の書類を提出する。 イ、特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサイクル券)の写し			
4.1.1 共通事項		a.撤去前に内容物(冷媒・吸収液・廃油等)の回収を要する機器・配管 冷媒等の回収等の費用 ※本工事 ・別途 1)冷媒の回収にあたっては、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)」に従って行い、監理者に次の資料を提出する。 イ、第一種フロン類充填回収業者登録通知書の写し ロ、フロン類充填・回収証明書 2)家庭用エアコン等で、「特定家庭用機器再商品化(家電リサイクル法)」の対象となっているものは、同法に従ってリサイクル(フロン類の回収を含む)を行い、監理者に次の書類を提出する。 イ、特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサイクル券)の写し			
4.1.2 撤去作業の安全対策		a.アスベストの撤去作業 アスベストの撤去作業は、改修標準(建築工事編) 9章 環境配慮改修工事 1節 アスベスト含有建材の除去工事に従う。			
改修標準 第2節 施工		a.壁付き機器、床置き機器、天井付け機器撤去の際の取付ボルト孔及び壁面、天井面の変色等の補修並びに床補修等 ・補修(穴埋め、既存仕上げ仕様) を行う ・ b.床、壁、天井等の撤去後の開口部の補修の方法及び仕上げ仕様 ・現状復旧 ・			
改修標準 第5章 発生材の処理等					
改修標準 第1節 発生材の処理		第6節 インサート及びアンカー 1.6.1 材料 a.アンカー金物の品質は次による。 1)基礎ボルトは、JIS B 1178による。 2)インサート金物は、鋼製又は鋳鋼製で錆止め処理を施したものとす。ただし、暗渠(床下ピット、トレンチ等)、多湿箇所、免震層等ではステンレス製とする。 3)あと施工金風系アンカーボルトのボルト部は、JIS G 3101、JIS G 3112又はこれらと同等以上の品質を有するものとする。金風系アンカーボルトの定着部(スリーブ)は、JIS G 3101、JIS G 3123又はこれと同等以上の品質を有するものとする。 4)あと施工接着系アンカーボルトのボルトは、JIS G 3101、JIS G 3112又はJIS G 4051による。固着剤は、エポキシ系樹脂、ポリエステル系樹脂又はセメント系とする。 5)水浸及び腐食のおそれのある部分に使用するアンカー金物は、ステンレス製(SUS304又はSUS316)又は溶融亜鉛めっき(付着量350g/㎡以上)を施したものとす。 b.アンカー金物の露出部は、錆止め処理を行う。			
5.1.1 一般事項		a.発生材の処理 ※発注者に引渡しを要するもの ・あり() ・なし b.再利用 ※現場において再利用を図るもの ・あり() ・なし c.再資源化 ※現場において再資源化を図るもの ・あり() ・なし なお、再資源化を図るものと指定されたものは、分別を行い、所定の再資源化施設等に搬入した後、調書を作成して監理者に提出する。			
5.1.2 産業廃棄物等		a.特別産業廃棄物の有無及び処理方法 ・有(処理方法:) ・無			
第2編 共通工事		1.6.2 あと施工アンカー a.原則としてあと施工アンカーは使用しない。 b.使用する場合には、工事の着手に先立ち施工計画書を作成し、監理者の承認を受ける。耐震計算書と施工状況を照合し、自主検査記録書を作成し監理者に提出する。 c.あと施工アンカーの性能試験及び施工後確認試験は、監理者と協議する。			
第1章 一般事項 (機械)					
第1節 規格等		1.1.4 追補 a.配置 1)機器及び器具は、性能や機能を満足するように整然と配置し、操作及び点検を要するも			
a.施工		・			
b.施工		・			
c.施工		・			
d.施工		・			
e.施工		・			
f.施工		・			
g.施工		・			
h.施工		・			
i.施工		・			
j.施工		・			
k.施工		・			
l.施工		・			
m.施工		・			
n.施工		・			
o.施工		・			
p.施工		・			
q.施工		・			
r.施工		・			
s.施工		・			
t.施工		・			
u.施工		・			
v.施工		・			
w.施工		・			
x.施工		・			
y.施工		・			
z.施工		・			
aa.施工		・			
ab.施工		・			
ac.施工		・			
ad.施工		・			
ae.施工		・			
af.施工		・			
ag.施工		・			
ah.施工		・			
ai.施工		・			
aj.施工		・			
ak.施工		・			
al.施工		・			
am.施工		・			
an.施工		・			
ao.施工		・			
ap.施工		・			
aq.施工		・			
ar.施工		・			
as.施工		・			
at.施工		・			
au.施工		・			
av.施工		・			
aw.施工		・			
ax.施工		・			
ay.施工		・			
az.施工		・			
ba.施工		・			
bb.施工		・			
bc.施工		・			
bd.施工		・			
be.施工		・			
bf.施工		・			
bg.施工		・			
bh.施工		・			
bi.施工		・			
bj.施工		・			
bk.施工		・			
bl.施工		・			
bm.施工		・			
bn.施工		・			
bo.施工		・			
bp.施工		・			
bq.施工		・			
br.施工		・			
bs.施工		・			
bt.施工		・			
bu.施工		・			
bv.施工		・			
bw.施工		・			
bx.施工		・			
by.施工		・			
bz.施工		・			
ca.施工		・			
cb.施工		・			
cc.施工		・			
cd.施工		・			
ce.施工		・			
cf.施工		・			
cg.施工		・			
ch.施工		・			
ci.施工		・			
cj.施工		・			
ck.施工		・			
cl.施工		・			
cm.施工		・			
cn.施工		・			
co.施工		・			
cp.施工		・			
cq.施工		・			
cr.施工		・			
cs.施工		・			
ct.施工		・			
cu.施工		・			
cv.施工		・			
cw.施工		・			
cx.施工		・			
cy.施工		・			
cz.施工		・			
da.施工		・			
db.施工		・			
dc.施工		・			
dd.施工		・			
de.施工		・			
df.施工		・			
dg.施工		・			
dh.施工		・			
di.施工		・			
dj.施工		・			
dk.施工		・			
dl.施工		・			
dm.施工		・			
dn.施工		・			
do.施工		・			
dp.施工		・			
dq.施工		・			
dr.施工		・			
ds.施工		・			
dt.施工		・			
du.施工		・			
dv.施工		・			
dw.施工		・			
dx.施工		・			
dy.施工		・			
dz.施工		・			
ea.施工		・			
eb.施工		・			
ec.施工		・			
ed.施工		・			
ee.施工		・			
ef.施工		・			
eg.施工		・			
eh.施工		・			
ei.施工		・			
ej.施工		・			
ek.施工		・			
el.施工		・			
em.施工		・			
en.施工		・			
eo.施工		・			
ep.施工		・			
eq.施工		・			
er.施工		・			
es.施工		・			
et.施工		・			
eu.施工		・			
ev.施工		・			
ew.施工		・			
ex.施工		・			
ey.施工		・			
ez.施工		・			
fa.施工		・			
fb.施工		・			
fc.施工		・			
fd.施工		・			
fe.施工		・			
ff.施工		・			
fg.施工		・			
fh.施工		・			
fi.施工		・			
fj.施工		・			
fk.施工		・			
fl.施工		・			
fm.施工		・			
fn.施工		・			
fo.施工		・			
fp.施工		・			
fq.施工		・			
fr.施工		・			
fs.施工		・			
ft.施工		・			
fu.施工		・			
fv.施工		・			
fw.施工		・			
fx.施工		・			
fy.施工		・			
fz.施工		・			
ga.施工		・			
gb.施工		・			
gc.施工		・			
gd.施工		・			
ge.施工		・			
gf.施工		・			
gg.施工		・			
gh.施工		・			
gi.施工		・			
gj.施工		・			
gk.施工		・			
gl.施工		・			
gm.施工		・			
gn.施工		・			
go.施工		・			
gp.施工		・			
gq.施工		・			
gr.施工		・			
gs.施工		・			
gt.施工		・			
gu.施工		・			
gv.施工		・			
gw.施工		・			
gx.施工		・			
gy.施工		・			
gz.施工		・			
ha.施工		・			
hb.施工		・			
hc.施工		・			
hd.施工		・			
he.施工		・			
hf.施工		・			
hg.施工		・			
hh.施工		・			
hi.施工		・			
hj.施工		・			
hk.施工		・			
hl.施工		・			
hm.施工		・			
hn.施工		・			
ho.施工		・			
hp.施工		・			
hq.施工		・			
hr.施工		・			
hs.施工		・			
ht.施工		・			
hu.施工		・			
hv.施工		・			
hw.施工		・			
hx.施工		・			
hy.施工		・			
hz.施工		・			
ia.施工		・			
ib.施工		・			
ic.施工		・			
id.施工		・			
ie.施工		・			
if.施工		・			
ig.施工		・			
ih.施工		・			
ii.施工		・			
ij.施工		・			
ik.施工		・			
il.施工		・			
im.施工		・			
in.施工		・			
io.施工		・			
ip.施工		・			
iq.施工		・			
ir.施工		・			
is.施工		・			
it.施工		・			
iu.施工		・			
iv.施工		・			
iw.施工		・			
ix.施工		・			
iy.施工		・			
iz.施工		・			
ja.施工		・			
jb.施工		・			
jc.施工		・			
jd.施工		・			
je.施工		・			
jf.施工		・			
jg.施工		・			
jh.施工		・			
ji.施工		・			
jj.施工		・			
jk.施工		・			
jl.施工		・			
jm.施工		・			
jn.施工		・			
jo.施工		・			
jp.施工		・			
jq.施工		・			
jr.施工		・			
js.施工		・			
jt.施工		・			
ju.施工		・			
jv.施工		・			
jw.施工		・			
jx.施工		・			
jy.施工		・			
jz.施工		・			
ka.施工		・			
kb.施工		・			

特記仕様書(5)		-																	
第1節 配管施工の一般事項																			
一般事項	a.建築物導入部配管要領	【付加】	13)流量計の前後には、乱流防止のために流量計の指定する直管部を設ける。 14)冷媒配管においては、冷媒漏洩検査を行い監理者に報告書を提出する。																
	建築物導入部の変位吸収配管要領は公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）によるが、該当する配管は以下のとおりとする。 ・フレキシブルジョイント（ ・給水 ・消火 ・油 ・ ） ・ボールジョイント（ ・給水 ・消火 ・油 ・ ） ・スリークッション（ ・給水 ・消火 ・油 ・ ） ・設計図による																		
	b.建築物エキスパンションジョイント部配管要領																		
	建築物エキスパンションジョイント部の変位吸収配管要領は公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）によるが、該当する配管は以下のとおりとする。 ・フレキシブルジョイント（ ・給水 ・消火 ・油 ・ ） ・ボールジョイント（ ・給水 ・消火 ・油 ・ ） ・設計図による																		
	c.機器接続部の配管																		
	機器接続部の金属材料と配管材料のイオン化傾向が大きく異なる場合(銅とステンレス、銅と銅等)は、絶縁継手を使用し絶縁を行う。																		
	d.その他一般事項																		
	1)立て管には偏心オフセットを避ける。やむを得ずオフセットを設ける場合は、継手部に応力が掛かり強度低下することのないように支持を行う。 2)床を貫通する場合、スリーブは床上100mmまで立ち上げることを原則とする。ただし、床転がし配管の場合はこの限りではない。 3)地下階外壁面には、支持用の埋込みボルトを取り付けてはならない。 4)配管工事終了後はフラッシングにより管内の清掃を行い工事中の配管シール残材、溶接片、塵あいなどを除去する。ストレーナーの内部金網のメッシュ数を順次変えて行う。フラッシングは、水道事業者の供給する水を使用する。フラッシングの方法と判定基準は、次表のとおりとする。																		
	<table><tr><th>配管用途</th><th>フラッシング方法</th><th>判定基準</th></tr><tr><td>給水・給湯配管</td><td>流水、換水により管内洗浄を行う。</td><td>イ、ロ</td></tr><tr><td>消火配管</td><td>流水、換水により管内洗浄を行う。</td><td>ハ</td></tr><tr><td>排水・通気配管</td><td>通水による管内洗浄を行う。</td><td>ハ</td></tr><tr><td>空調ドレン</td><td></td><td></td></tr></table>			配管用途	フラッシング方法	判定基準	給水・給湯配管	流水、換水により管内洗浄を行う。	イ、ロ	消火配管	流水、換水により管内洗浄を行う。	ハ	排水・通気配管	通水による管内洗浄を行う。	ハ	空調ドレン			
	配管用途			フラッシング方法	判定基準														
給水・給湯配管	流水、換水により管内洗浄を行う。	イ、ロ																	
消火配管	流水、換水により管内洗浄を行う。	ハ																	
排水・通気配管	通水による管内洗浄を行う。	ハ																	
空調ドレン																			
判定基準																			
イ.上水・給湯管は、末端給水栓において遊離残留塩素が0.2mg/L以上検出されるまで消毒を行う。引渡し時には水質検査表を提出する。 ロ.雑用水管は、末端排水栓において遊離残留塩素が0.1mg/L以上であること。 引渡し時には水質検査表を提出する。 ハ.ごみ、配管施工残差、ほこり、詰り等がないこと。 ニ.ストレーナーメッシュ、フィルター等にごみ、配管施工・接合材残差等がないこと。 ホ.濁度5以下であること。 ヘ.日本冷凍空調工業会JRA-0L02:1994で規定している水質基準を遵守していること。 ト.配管端口に白ウエスを当てて異物、水分がないこと。																			
5)ステンレス鋼管の溶接接合において、分岐箇所をバーリング加工する場合は、現場での加工を禁止する。バーリング加工は専門加工業者が工場で行う。専門加工業者の会社経歴書、実績表等を監理者に提出する。また、工場でのバーリング加工は、空気調和衛生工学会の「建築設備用ステンレス鋼鋼管のプレハブユニットSHASE-S 014-2014」の「表10バーリング加工における母管及び分岐管の厚さ・管径の適用範囲」により加工を行う。																			
6)建築物の重要諸室天井内での漏水防止のために設ける防水パンは、次による。 イ.設置場所・範囲 ※設計図による（機器、配管、ダクト用等） ロ.防水パンの材質・形状 ※設計図による ・重ねタイプ折板 H=85mm 程度（建築工事） 溶融アルミニウム-亜鉛鉄板（ガルバリウム鋼板） 板厚0.8mm 程度 ・箱状水密板 H=50程度 ・ステンレス（SUS 304） （※板厚1.2mm ・板厚1.6mm ・ ） ・溶融アルミニウム-亜鉛鉄板（ガルバリウム鋼板） （※板厚1.2mm ・板厚1.6mm ・ ） ・配管半割り保護材 VU管（ ）φ ハ.防水パンからの排水機構 ・設備工事（ ・空調 ・衛生） ・建築工事 配管材料 接続先 ※（ ）水槽へ接続 ・ ・自然乾燥方式 ニ.防水パンへの漏水検知器の設置 ・設備工事（ ・空調 ・電気） ・設置なし ホ.防水パン及び防水パンからの排水管は、水張り試験及び通水試験を行う。																			
7)下階及び隣室への漏水・浸水防止に必要な部屋では、周囲に立上りをして塗膜防水を施す。漏水検知器は、設備工事とする。 イ.部屋の種類（ ・ ・ ・ ・ ） ロ.立上りの仕様(※コンクリート100mm ・ ・ ・) 8)居室内に空調機や水槽・熱交換機等がある場合には、周囲に立上りをして塗膜防水を施す。排水及び漏水検知器は、設備工事とする。 イ.部屋の種類（ ・ ・ ・ ・ ） ロ.立上りの仕様(※コンクリート100mm ・ ・ ・) 9)PS類の最下部において、配管類をPS類のスラブ下で振り回し、その下部を使用する場合には、用途にかかわらず防水パンを設置し、漏水検知器にて中央監視盤へ移報する。																			
10)ステンレス鋼鋼管の施工上の注意事項 イ.コンクリート壁・床への埋込み、スリーブ貫通部及びその他躯体との絶縁箇所には、プラスチックテープを1/2重ね2回巻きする。 ロ.保温のアルミニウム、亀甲金網、巻き線、菊座等が直接接触しないよう施工する。 ハ.地中埋設部は、管を土壌に接触させないように施工する。 ニ.地中埋設から地上あるいはビット等に至る管には、出た直近に絶縁フランジを設ける。																			
11)1台当たりの圧縮機が法定冷凍能力20トン以上のチリングユニットには、冷媒排出管を設ける。また、冷媒排出管は、原則として単独で屋外に導き、その先端は地上3m以上、建築物の開口部から5m以上離れた位置に開放する。なお、冷媒排出管の口径は、安全弁口径以上とする。																			
12)蒸気（往）配管の勾配は、原則先下がり勾配とし、1/250以上とする。先上がり勾配の場合は、1/80以上とする。蒸気（還り）は、先下がり勾配とし、1/200から1/300とする。ドレン等の停流により配管の腐食がないよう施工管理を確実に行う。また、高圧蒸気は、うす巻き形ガスカート（外輸付き又は内外輸付き）とする。																			
第2節 保温、塗装及び防錆工事																			
第1節 保温工事																			
3,1,1 一般事項																			
【付加】 a.保温の指定 ・ b.寒冷地の適用 ①寒冷地 c.外装材、補助材 1)保温工事の外装材、補助材は、アルミガラスクロスは着色アルミガラスクロス、きつ甲金網はビニルきつ甲金網とし、いずれも着色された材料を使用し、各配管、ダクト用途ごとに色分けし施工する。詳細は監理者と協議する。																			
3,1,2 【付加】 材料																			
a.断熱ジャケットの仕様 1)外装材、内装材、保温材は所定の耐水性、耐熱性、耐薬品性を有する。 2)マジックファスナー等で取り付け、着脱が容易である。 3)取り付ける本体形状に密着し、熱放散、熱漏れ等が少ない。																			
3,1,15 給排水衛生設備工事の保温																			
a.共同溝の保温種別 ※屋外露出仕様 ・屋外露出仕様 b.共同溝内の排水管の保温の有無 ※保温しない ・保温する c.機器の保温範囲 次の機器は保温を行う。 ・ポンプ（ ） ・屋外設置のポンプ ・ d.管等の保温範囲 ・ e.管等の保温範囲留意事項 配管・弁・フランジの保温は次による。 1)給水管及び排水管等が防火区画を貫通する部分は、ロックワール保温材で充填する。 2)通気管、排気管で屋外開口部から2mの範囲は保温する。 3)各種タンク類のドレン管の屋外充水部及び充水部以降100mmまでの範囲は保温する。 4)電気室・電子計算機室内(天井内を含む)の不活性ガス消火配管は保温する。 5)屋外の給水用配管でポンプ周りの断熱継手、フレキシブルジョイント等は保温する。 なお、寒冷地仕様(適用は特記による)では、下記の6)～8)を追加する。 6)連結送水管、連結散水配管で充水式の場合の屋外露出部分は保温する。 7)屋内消火栓、屋外消火栓、補助散水栓配管の屋外露出部分は保温する。 8)ガレージ、ピロティ等のスプリンクラー消火、泡消火配管は保温を行う。(不凍液を使用する場合、又は乾式、開放型の場合は保温を行わない。) 9)寒冷地にかかわらず駐車場出入口10m以内及びピロティ等に設置するスプリンクラー消火・泡消火配管のスプリンクラーヘッド巻出し配管、枝配管部分は保温を行う。 10)蒸気ヘッダーの弁には断熱ジャケットを装着する。 11)蒸気配管の仕管及び還り管はすべて保温を行う。また、蒸気・温水各種装置まわり及び弁類は保温を行う。 12)蒸気配管及び温水管の伸縮管継手、フレキシブルジョイント等は弁類用断熱ジャケットで保温を行う。 13)給湯器からの給湯配管、熱湯配管は、給湯温度低下防止用に保温を行う。																			
f.多湿箇所及び暗渠 多湿箇所とは、下記とする。 ※浴室 ・厨房 ・屋内プール ・免震層 ・ なお、浴室、厨房、屋内プール天井内も多湿箇所とする。 暗渠内とは、下記とする。 ※ビット内 ・トレンチ ・免震層 ・																			
g.保温材 ロックワール保温材 ・ グラスウール保温材 ・ ポリスチレンフォーム保温材 ※屋外露出、多湿箇所（ただし70℃以下の部分） 独立気泡系合成ゴム保温材 ・冷凍・冷蔵庫用冷媒配管 ・ ただし、独立気泡系合成ゴム保温材の保温厚は、配管の流体温度及び特記「3,1,6 結露防止の条件」等をもとに計算し決定する。計算書は監理者に提出する。																			
h.機器の保温外装 屋内： ※カラー亜鉛鉄板 ・溶融アルミニウム-亜鉛鉄板（ガルバリウム鋼板） ・ステンレス鋼板																			
【付加】 i.断熱ジャケット 1)結露防止のための保温材は、次の条件により、表面に結露を生じさせない厚さのものとする。なお、適用範囲は、配管、ダクトとする。ただし、施工場所が結露防止条件の「一般の場合」の条件に明らかに達しないと判断された場合は、「標仕」の保温厚とする。 結露防止の条件 <table><tr><th></th><th>一般の場合</th><th>多湿箇所の場合</th></tr><tr><td>周囲温度</td><td>30℃</td><td>30℃</td></tr><tr><td>関係湿度</td><td>85%RH</td><td>90%RH</td></tr><tr><td>表面の熱伝達率</td><td>8,1W/m²・K</td><td>8,1W/m²・K</td></tr></table> 注)一般の場合とは、隠ぺい部、室内露出、機械室を指す。多湿箇所とは、厨房、浴室等、屋内プール(浴室・プール天井内を含む)を指す。 b.凍結防止(寒冷地仕様) 1)寒冷地の屋内においては、凍結防止のための保温材の厚みは、周囲温度-5℃、最初の管内水温5℃で管内の水が5時間静止の場合に、管内水温を0℃まで低下させないものとする。 2)寒冷地の下記の下記の屋内においては、保温材の厚みを、配管呼び径15で保温材厚み90mm、径20で厚み75mm、径25で厚み60mm、径32以上では厚み50mmとする。 室名（ ） ・行う（室名） 4)寒冷地の屋外配管は原則として自己制御型電気ヒーターを設けるか、水抜きを可能とする。自己制御型電気ヒーター巻き付け箇所の保温材はロックワールとし、その保温範囲の保温外装に「凍結防止ヒーター設置」と表示する。 c.高温部の危険防止及び高圧蒸気管等の保温厚さ 1)手の触れるおそれのある部分の高温部の保温材の厚みは、保温材の表面温度を50℃以下にするものとする。 2)高圧蒸気管(0.1MPa以上)及び蒸気ヘッダーの保温材の厚みは、配管呼び径15～20で保温厚み30mm、径25～50で厚み40mm、径65～100で厚み50mm、径125～200で厚み65mm、径250以上で厚み75mmとする。 3)高温配管の支持金物、架台等に熱が伝わらないように熱の絶縁を行うか、支持金物、架台の断熱を行う。					一般の場合	多湿箇所の場合	周囲温度	30℃	30℃	関係湿度	85%RH	90%RH	表面の熱伝達率	8,1W/m ² ・K	8,1W/m ² ・K				
	一般の場合	多湿箇所の場合																	
周囲温度	30℃	30℃																	
関係湿度	85%RH	90%RH																	
表面の熱伝達率	8,1W/m ² ・K	8,1W/m ² ・K																	
第2節 塗装及び防錆工事																			
3,2,1 塗装 3,2,1,3 塗料種別 3,2,1,4 塗装																			
a.塗料種別 ・ a.塗装箇所 b.指定色塗装 ・ファンコイルユニット ・コンベクター ・タンク、ヘッダー類 ・吹出口、吸込口 ・消火栓箱 ・ベントキャップ ・機器類（ ） ・酸類（ ） ・配管（ ） c.塩害地域 ・適用する ・適用しない 【付加】 d.塩害地域の塗装 塩害地域の塗装は、次による。 1)屋外設置機器は、製造者の耐塩害仕様とする。 2)屋外部分における支持金物・架台類の鋼製材の塗装は、原則として次による。 ※屋内（※溶融亜鉛めっき2種35 ・ ） ※屋外（※溶融亜鉛めっき2種55 ・溶融アルミニウムめっき2種） 塩害地域の屋外塗装 <table><tr><th>工程</th><th>材料・施工方法</th></tr><tr><td>1 下塗り</td><td>エポキシ樹脂系プライマー(塗布量0.18kg/m²)</td></tr><tr><td>2 下塗り</td><td>工程1に同じ</td></tr><tr><td>3 穴埋めパテかい</td><td></td></tr><tr><td>4 研磨紙すり</td><td>#120～#180</td></tr><tr><td>5 中塗り</td><td>中塗り用強化ゴム系樹脂塗料(塗布量0.16kg/m²)</td></tr><tr><td>6 研磨紙すり</td><td>#120～#180</td></tr><tr><td>7 上塗り</td><td>上塗り用強化ゴム系樹脂塗料(塗布量0.14kg/m²)</td></tr></table> 注)亜鉛めっき面に塗布する場合は、工程2を省略する。				工程	材料・施工方法	1 下塗り	エポキシ樹脂系プライマー(塗布量0.18kg/m ²)	2 下塗り	工程1に同じ	3 穴埋めパテかい		4 研磨紙すり	#120～#180	5 中塗り	中塗り用強化ゴム系樹脂塗料(塗布量0.16kg/m ²)	6 研磨紙すり	#120～#180	7 上塗り	上塗り用強化ゴム系樹脂塗料(塗布量0.14kg/m ²)
工程	材料・施工方法																		
1 下塗り	エポキシ樹脂系プライマー(塗布量0.18kg/m ²)																		
2 下塗り	工程1に同じ																		
3 穴埋めパテかい																			
4 研磨紙すり	#120～#180																		
5 中塗り	中塗り用強化ゴム系樹脂塗料(塗布量0.16kg/m ²)																		
6 研磨紙すり	#120～#180																		
7 上塗り	上塗り用強化ゴム系樹脂塗料(塗布量0.14kg/m ²)																		
【付加】 e.耐重傷仕様 ・適用する（ ） 【付加】 f.塗装の範囲 金属電線管の塗装を行う範囲 ・屋外露出部 ・（ ）室の屋内露出部 保温を施さない亜鉛めっきされた露出ダクトや露出配管で、塗装を行う範囲 ・機械室 ・倉庫 ・電気室 ・発電機室 ・EV機械室 ・（ ）室 屋外設置機器の機器本体部分（共通ベース）で、エポキシ樹脂塗装を行う範囲 ・熱源機器 ・室外機 ・ポンプ類 ・ファン類 ・鋼材切端端部																			
3,2,2 【付加】 防錆																			
a.配管類の防錆・防食 ※配管類の防錆・防食の基準は、次表による。 防錆・防食処理基準(配管類) ただし、ガス管はガス事業者の基準による。 <table><tr><th>施工箇所</th><th>管種</th><th>防錆・防食基準</th><th>摘要</th></tr><tr><td>コンクリート中 軽量コンクリート中 土間コンクリート下</td><td rowspan="2">鋼管(白、黒管) 樹脂ライニング鋼管 鉛管</td><td>外面樹脂ライニング 管とする</td><td rowspan="2">外面樹脂ライニング管は 接合部継手廻りを防食 テープ(自己融着)巻</td></tr><tr><td>暗渠(トレンチ・ ビットを含む)内 二重スラブ内 多湿箇所</td><td>防食テープ (自己融着) 1/2重ね1回巻</td></tr><tr><td>地中</td><td>鋼管(白、黒管) 樹脂ライニング鋼管</td><td>ベトロラタム系 防食テープ巻き</td><td></td></tr></table> 注)1.配管類の保温の要否については3,1,4及び3,1,5による。 2.多湿箇所は、厨房、浴室、屋内プール(天井内を含む)とする。 3.上記の多湿箇所は、外面樹脂ライニング管とする。				施工箇所	管種	防錆・防食基準	摘要	コンクリート中 軽量コンクリート中 土間コンクリート下	鋼管(白、黒管) 樹脂ライニング鋼管 鉛管	外面樹脂ライニング 管とする	外面樹脂ライニング管は 接合部継手廻りを防食 テープ(自己融着)巻	暗渠(トレンチ・ ビットを含む)内 二重スラブ内 多湿箇所	防食テープ (自己融着) 1/2重ね1回巻	地中	鋼管(白、黒管) 樹脂ライニング鋼管	ベトロラタム系 防食テープ巻き			
施工箇所	管種	防錆・防食基準	摘要																
コンクリート中 軽量コンクリート中 土間コンクリート下	鋼管(白、黒管) 樹脂ライニング鋼管 鉛管	外面樹脂ライニング 管とする	外面樹脂ライニング管は 接合部継手廻りを防食 テープ(自己融着)巻																
暗渠(トレンチ・ ビットを含む)内 二重スラブ内 多湿箇所		防食テープ (自己融着) 1/2重ね1回巻																	
地中	鋼管(白、黒管) 樹脂ライニング鋼管	ベトロラタム系 防食テープ巻き																	
竣工	・	・																	
竣工	・	・																	
監理	・	・																	
竣工	・	・																	
岩手県立大学 滝沢キャンパス 加圧給水ポンプユニット更新工事																			
(機) (通し番号 7) 2 - 5																			
機械設備 特記仕様書(5)																			
A1: - A3: -																			
No. T-150287-E																			

[illegible]

[illegible]



・ポンプ・配管更新手順

1期工事（雑用水ポンプ更新）

- ①、雑用水槽上部のスラブに、コア抜き（200φ×4）をする。（開口補強含む）
- ②、外構系統配管にバルブ（100A）新設する。（図2、*2）
- ③、雑用水系統と外構系統は、PCW-EC102のポンプ1台（圧力タンク側）にて全て供給するよう切り替える。
- ④、PCW-EC103及びPCW-EC102の1台を撤去し、基礎を打ち増す。1990×950 → 2300×1600。
- ⑤、PCW-EC102をPCW-EC102の撤去跡に新設し、ポンプ廻りの配管及びメータを更新し切替える。
- ⑥、PCW-EC102の既設ポンプ及び不要配管を撤去し、コンクリート基礎を補修する。（穴埋め）


2期工事（上水ポンプ更新）別途工事

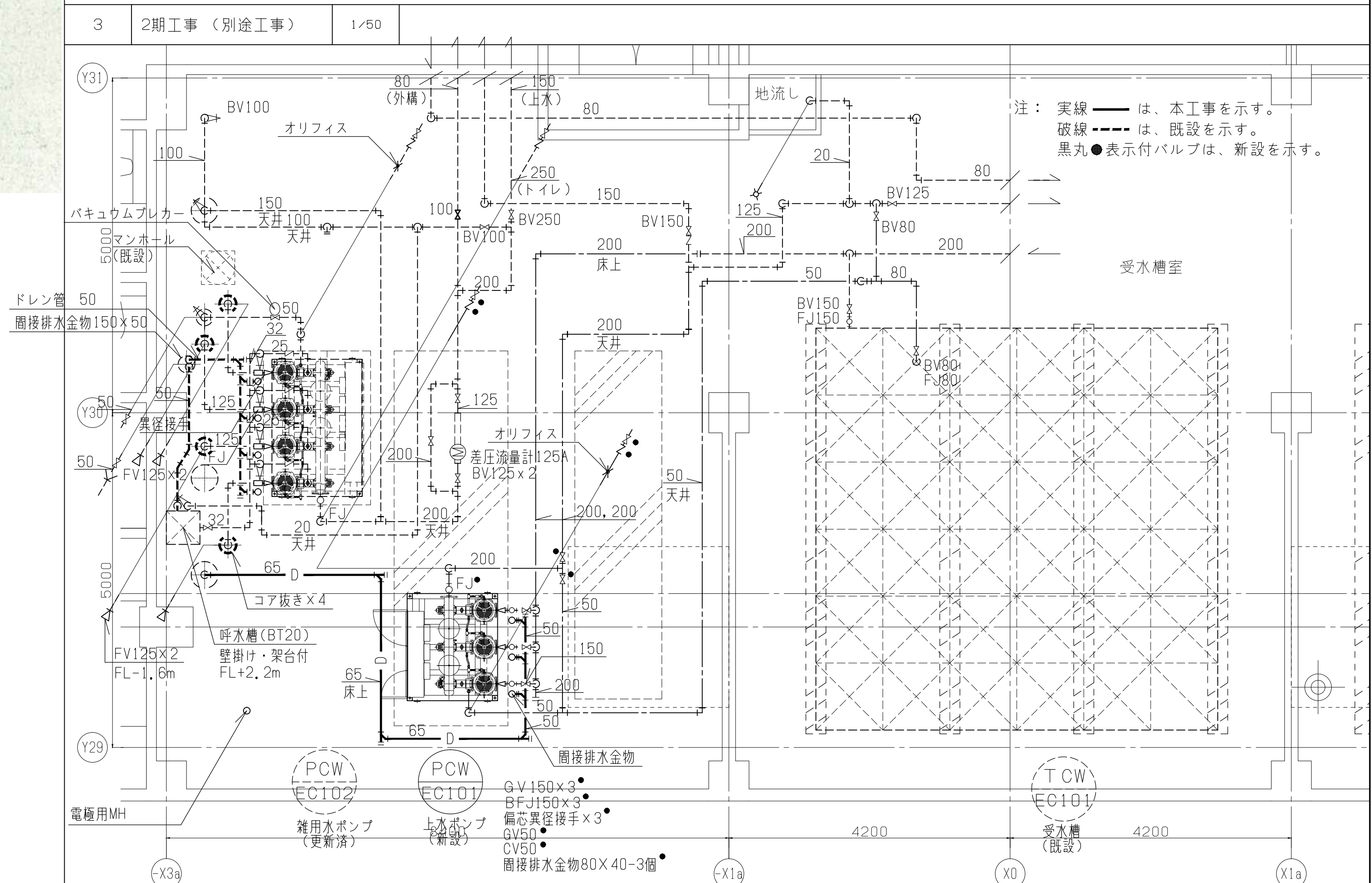
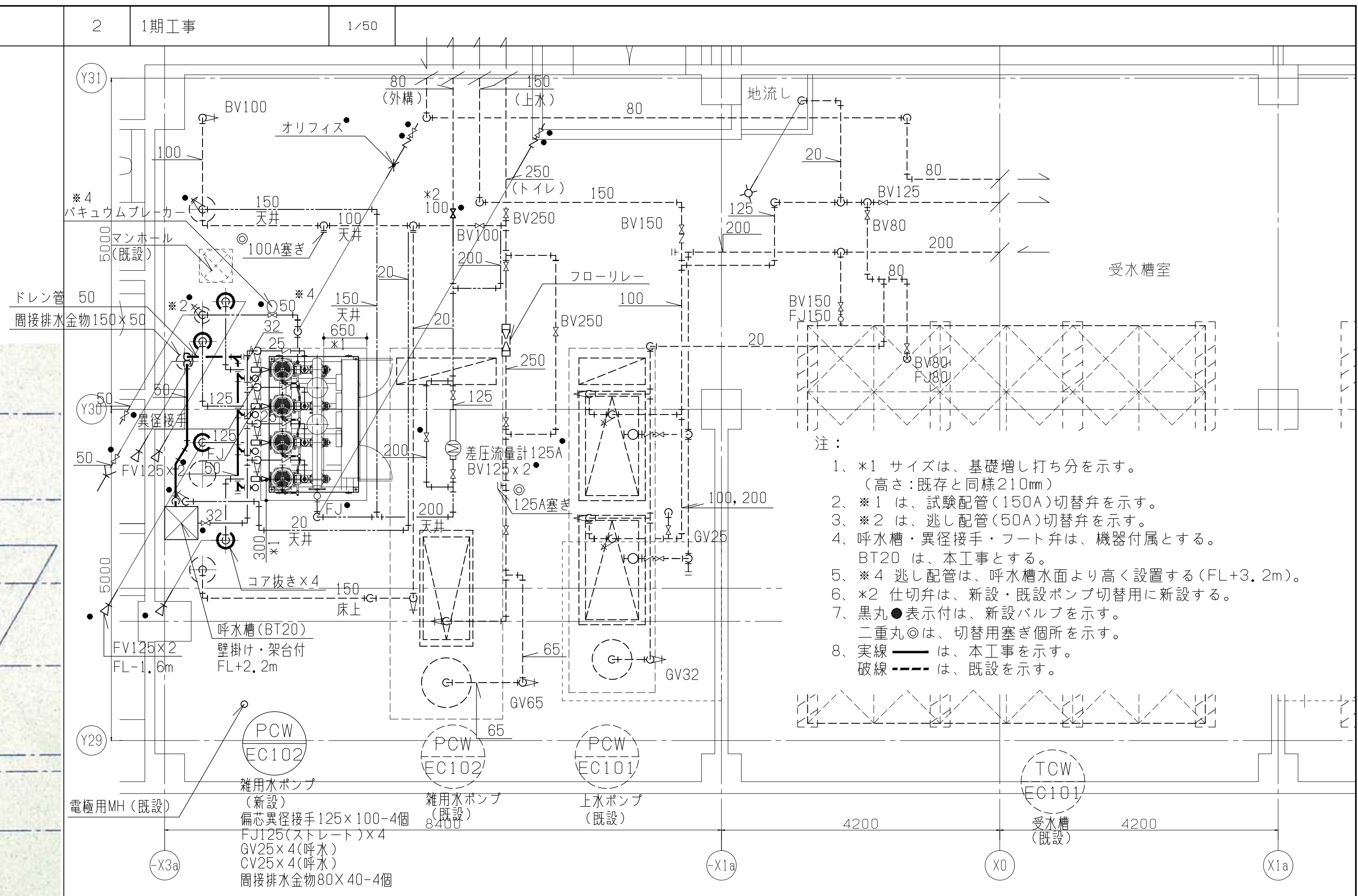
- ①、既設ポンプ（PCW-EC102）の撤去跡に、PCW-EC101の新設ポンプを設置する。
- ②、ポンプ廻りの配管を更新し切替える。
- ③、PCW-EC101の既設ポンプ及び不要配管を撤去し、コンクリート基礎を補修する。（穴埋め）

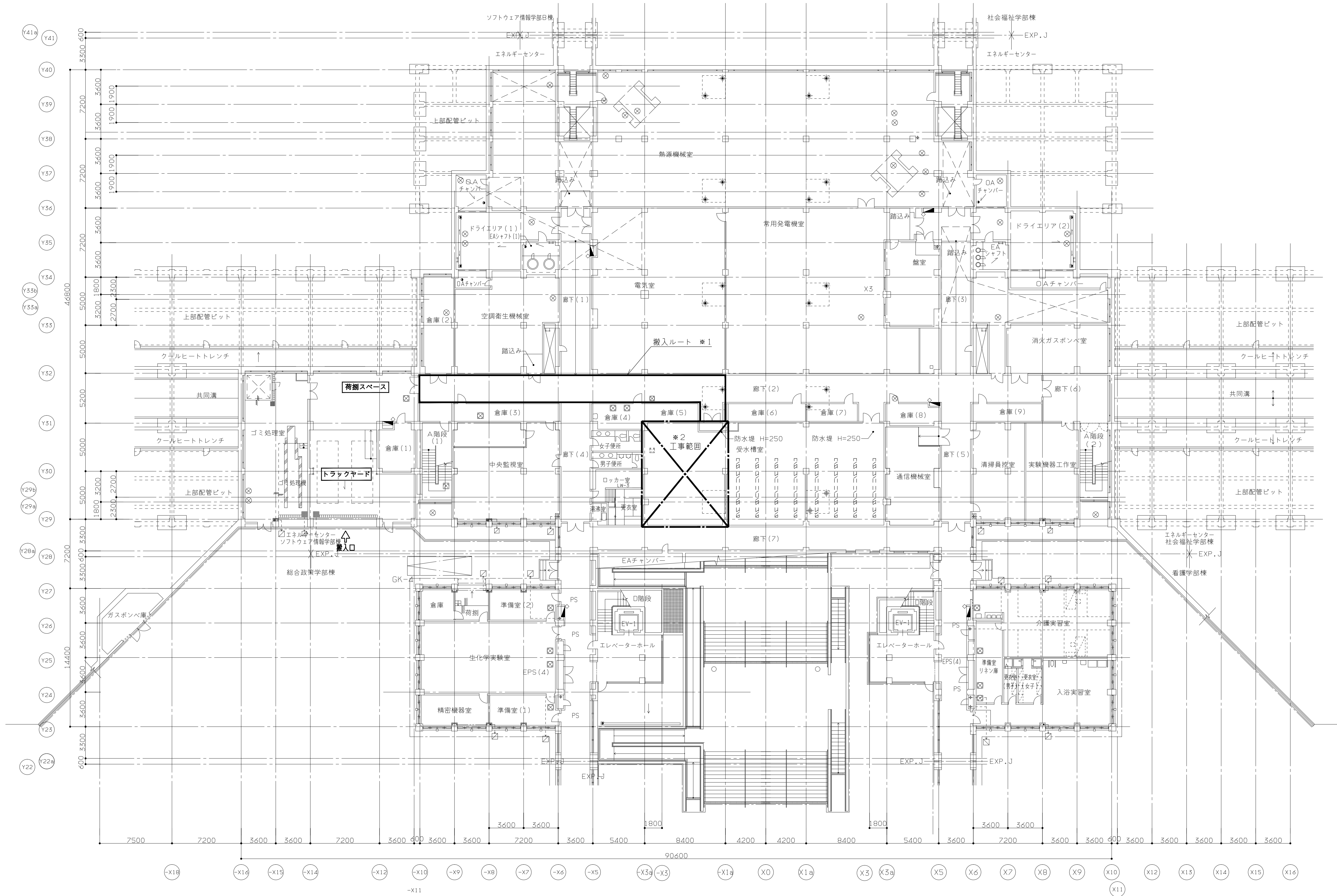
新規機械基礎は以下の仕様とする。

- ・配筋は、D10 D13@200のかご筋を見込むこと。
- ・新規基礎と、既設基礎および1階床スラブとの間は、シーアコネクタを設けて接続する。
- ・シーアコネクタの仕様は、D10@500×@500(接着系アンカー、有効埋込み長さ6da)程度とする。
- ・新規基礎との接続面は、目荒らし(平均深さ2~5mm程度の凹凸を打継面の30%程度)を行う。

////// = 1期工事撤去範圍

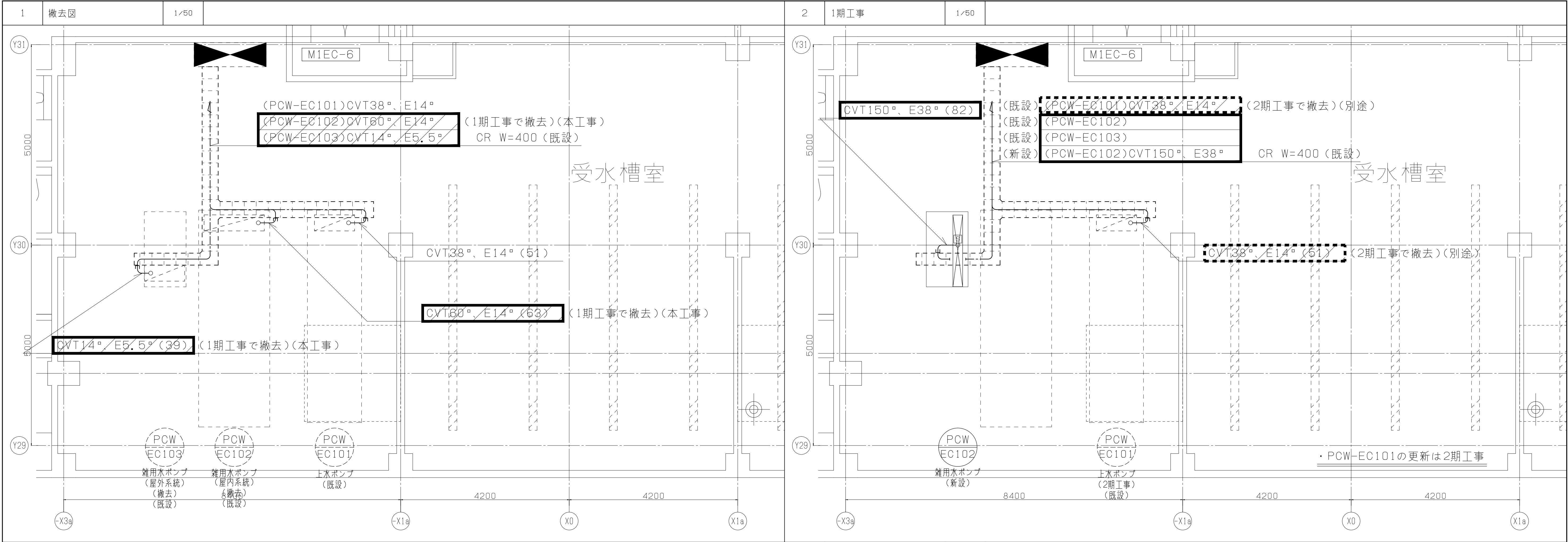
 = 2期工事撤去範囲
 (別途工事)





[illegible]

[illegible]



3

2期工事(別途工事)

1/50

電気設備工事概要

※改修工事は1期工事、2期工事の2回に分けて、実施する。(本工事は1期工事のみ)

1. 既設動力盤M1EC-6の改修は、動力盤リスト表に基づき、1期及び2期工事にて実施。
2. 既設動力盤M1EC-6の1次側幹線は、1期、2期工事共現状のままとする。
3. 改修対象負荷は、下記の如くとする。
4. CRから新設盤間の配管には十分な振れ止めを施すこと。

	幹線	盤名称	機器記号	機器名称	工事内容	備 考
1期工事	m-10	M1EC-6	PCW-EC103	雑用水給水 ポンプユニット (屋外系統)	ELCB撤去 配管、配線撤去	CRは再使用
	m-11		PCW-EC102	雑用水給水 ポンプユニット (屋内系統)	ELCB更新 配管、配線更新	
2期工事 (別途工事)	m-10		PCW-EC101	上水給水 ポンプユニット	ELCB更新 配管、配線更新	CR W=400 新設

は本工事改修(1期工事)

は本工事撤去(1期工事)

は2期工事改修(別途工事)

は2期工事撤去(別途工事)

番工

竣工

監理

施工

18.03.15

岩手県立大学 滝沢キャンパス
加圧給水ポンプユニット更新工事

電気設備 動力設備平面図 (撤去図・1期・2期)

5 - 3

11: 1/50
A3: 1/100

150287 - E